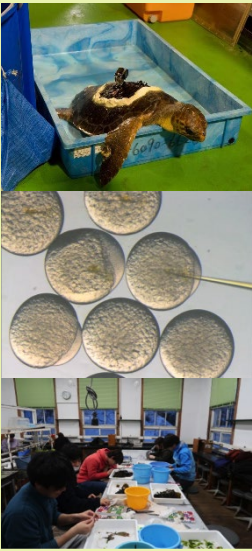


当拠点について Introduction



当拠点は白尻水産実験所・七飯淡水実験所・忍路臨海実験所の3施設と生態系変動解析分野が運営しています。寒流と暖流が混じりあい、淡水から海水まで多種多様な生物が生息する北海道の豊かな水圏をフィールドとする施設がネットワークを形成することで、一水系のみではとらえることができない日本の水圏生物の見方や、南方海域では経験できない北方域の生物生産を体感できます。

本拠点到所属する教員は、プランクトン、藻類、魚類、海棲哺乳類などの多様な生物を対象としています。ゲノム科学、バイオリギング、発生工学などの多様な解析手法を用いて、北海道の自然資源の保全と活用、生態現象を計測する先端技術の開発に力を注ぐとともに、環境・水産増養殖・対象生物・人間活動に関する複層的な理解が可能になる教育を目指しています。



HPはこちら



教育拠点に関する連絡先（北海道大学札幌キャンパス内）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
学術協力担当
TEL: 011-706-3452 FAX: 011-706-4930
http://www.fsc.hokudai.ac.jp/suisan-kyoten



忍路臨海実験所
〒048-2561 北海道小樽市忍路町1-460
TEL/FAX: 0134-64-2303
E-mail: oshoro@fsc.hokudai.ac.jp

白尻水産実験所
〒041-1613 北海道函館市白尻町152
TEL/FAX: 0138-25-3237
E-mail: usujiri@fsc.hokudai.ac.jp

七飯淡水実験所
〒041-1105 北海道亀田郡七飯町桜町2-9-1
TEL/FAX: 0138-65-2344
E-mail: nanae@fsc.hokudai.ac.jp



2023年度 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 水圏ステーション 公開水産科学実習 北海道の自然と水産科学を体験しよう！

文部科学省 教育関係共同利用拠点プログラム
食糧基地 北海道の水圏環境を学ぶ体験型共同利用教育拠点

文部科学省 教育関係共同利用拠点
食糧基地 北海道の水圏環境を学ぶ体験型共同利用教育拠点

水圏環境・水圏生物 技術・人間活動から 未来を考察できる人材育成

暖流系と寒流系の海と河川に隣接する3つの北大のフィールド施設で、全国の大学生に向けた多様な実習を展開しています。
特徴的な水圏環境を、五感と最先端の技術を駆使して体験しましょう！



実習内容 Courses

北海道の周囲は様々な環境の海で囲まれ、陸域には、湖・湿地・河川など、多様な水圏環境が存在しています。北海道には、サケを代表とする河川と海を行き来する魚類が多く、秋になれば、札幌のような大都市を流れる川にもサケが遡上します。また、それらを捕食する海棲哺乳類も、魚の季節変動に合わせて移動します。このような生物のいとなみを実感できるのが、北海道の特徴です。北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーションでは、こうした北海道の様々な環境に生息する生物を対象として、その生態や人間との関わりが体験できる公開水産科学実習を開講します。

夏季フィールド科学実習

(現場で学ぶ北海道の海藻と魚)

開講：R4年 8月下旬～9月上旬(4泊5日)
べ切：R4年 7月中旬

コンブ類を対象とした多様性研究や種苗生産を体験するとともに、北方圏の海産魚類を対象としたシュノーケリングによる生態観察や形態分類、定置網等の実習を行います。北の海の豊かさを実際に感じることができる実習です。



対象：学部1～4年生・大学院生 定員：8名
参加費(食費等)：9,000円程度

新バイオリギング実習(仮称)

(水圏フィールド環境・生物モニタリング実習)

開講：R4年 8月下旬～9月上旬(4泊5日)
べ切：R4年 7月中旬



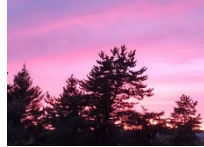
対象：学部1～4年生・大学院生 定員：10名
参加費(食費等)：9,000円程度

水産の資源動態を研究する上で、海中での生物の移動の把握は重要な問題です。本実習では、生体に電子機器を装着してデータを記録するバイオリギングなど最新の計測技術を用い、水中生物の行動を記録し、解析する技術の取得を目指します。

亜寒帯魚類を対象とした増養殖実習(詳細未定)

開講：R5年 2月下旬～3月上旬(4泊5日)
べ切：R4年 12月中旬

詳細が決定次第、当拠点のホームページにてお知らせいたします。



対象・定員・参加費 未定

海棲哺乳類実習

(人間活動と水圏生物の共生に関する実習)

開講：R5年 2月下旬～3月上旬(予定)
べ切：R4年 12月中旬(予定)

北海道の鯨類を対象とした食性解析や行動観察の基礎を学びます。講義と実習を通して、海洋生態系と人間活動の関わりについて考えるとともに、フィールド調査の基礎についても学ぶことができます。



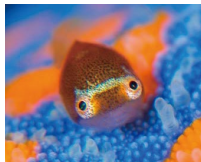
対象：学部1～4年生・大学院生 定員：8名
参加費(食費等)：9,000円程度

春季フィールド科学実習

(亜寒帯沿岸生物の増養殖実習)

開講：R5年 2月下旬～3月上旬(4泊5日)
べ切：R4年 12月中旬

海洋生物の形態学的・遺伝学的な手法を用いて多様性の実態を理解するとともに、冬季の北海道海域でドライスーツを装着しての潜水観察で、その生態と環境との関わりを学びます。北海道の厳しい寒さの中の生命の営みが体験できます。



対象：学部1～4年生・大学院生 定員：8名
参加費(食費等)：9,000円程度

オーダーメイド型実習 長期滞在プログラム



本教育拠点の白尻水産実験所、七飯淡水実験所、忍路臨海実験所では、これらの施設を利用した各大学独自の実習を募集しています。また、学生の卒業論文・修士論文・博士論文研究も随時受け入れています。本ステーションの教員がバックアップいたしますので、お気軽にご相談ください。

内容を変えて復活!

よくある質問 FAQ



Q. 申込書類はどこで手に入りますか？

当拠点のHPからダウンロードできます。
実習に関連するお知らせは、すべてこのHPで告知されますので、定期的にご確認ください。

Q. 実習参加費はいくらですか？

授業料は基本的に無料ですが、特別聴講学生以外の実習生が単位取得を希望する場合、授業料がかかることがあります。
各実習には参加費が設定されており、内訳は主に授業期間中の宿泊費や食事代です。ほかに、集合場所までの往復交通費や実習前後の宿泊料は自己負担となります。

受講生の声 Voices

今、自分が住んでいるところでは見れない魚が、ありえないくらいのサイズで見れて感動しました。
(応用発生工学実習)

座学で習ったとおりに緑藻・紅藻・褐藻が階層的に分布していること、浮き袋を作るという思いもよらない方法で生育する種があることなど、観察しながら実感を持って学ぶことができました。発表ポスターをみんなまで深夜までかかって仕上げたのも良い思い出です。(春季フィールド科学実習)

データから、何故この生き物がこの様な行動をとったのか分からないなりに想像して考察する面白さを体験できたのが、一番の収穫でした。
(バイオリギング実習)

少人数の実習であることでメンバーと仲良くなりやすかったし、先生にも気軽に話しかけることができました。(夏季フィールド科学実習)

学年の違いによる知識の差や経験の差による疎外感や足手まとい感があるかと思ったらそんなことなく、とても楽しく過ごせた。(バイオリギング実習)

Q. 単位は取得できますか？

国公立大学、および単位互換協定を結んだ私立大学の学生は特別聴講学生としての受講が可能であり、北海道大学より単位が認定されます。また、全員に修了証を発行しますので、上記以外の大学でも所属大学の単位を取得することが可能な場合があります。詳細は、所属大学の教務関係担当へお問い合わせください。なお、大学院生の単位認定はできません。

Q. どのような実習設備がありますか？

共同利用実習・研究の実施にあたり、ラボ実習用の実験機器やフィールド実習用の観測装置を各種取り揃えています。海洋生物の飼育実験等を目的としたオーダーメイド型実習や、長期滞在プログラムも可能です。お気軽にご相談ください。

私は4年生ですが、1～2年のうちに経験しておけばよかったと思ったので、同大学の後輩にも来年度からの参加をすすめたいと思いました。(夏季フィールド科学実習)

海棲哺乳類についての知識はもちろんのこと、研究手法・解析方法、さらに全ての物事に共通する考え方が学べ、充実した4日間でした。(海棲哺乳類実習)

実習の中で野外採集や実験など体験型の学びが多く、とても楽しかったです。先生やTAの方も本当に優しく、実習がより充実したものになりました。(春季フィールド科学実習)

一緒に受講した学生の考え方を聞いたり、交流を通じて普段触れることのできない世界を知ることができたので楽しかった。(海棲哺乳類実習)